

# 箱根駅伝予選会 部便り

## 目次

1. 監督より
2. 結果
  - 2.1 総合結果
  - 2.2 個人結果
3. 長距離チーフの言葉
4. 出場選手の言葉
  - 4.1 学部生
  - 4.2 院生
5. 新長距離チーフの言葉
6. 自己記録更新者一覧
7. 2016年度部内五傑
8. 今季樹立東大記録一覧
9. 主務より

## 1. 監督より

### 監督・藤田靖浩

今年度の予選会は、総合10時間59分、30位と残念ながら目標としていた過去最高記録の更新には至りませんでした。日差しが強く徐々に気温が上がる中、三番手以下の記録が全体的に伸び悩みました。昨年に比べてコンディションが少し悪かったものの、全体を見れば上位校になるほど昨年比のタイム差は小さく、スピードを中心にまだまだベースの実力をアップさせなければ、と感じる内容でした。

一方、個人では2年近藤が終始安定した走りを見せ、1時間1分4秒の58位で選抜メンバー入り。東大陸上部としては12年振りに箱根を走る可能性が高くなっており、部全体のモチベーションも高まっています。

出場の際は、是非、応援宜しくお願い致します。

## 2. 結果

### 2.1 総合結果

・上位10校が本大会に出場

1	大東文化大学	10時間 08分 07秒
2	明治大学	10時間 08分 17秒
3	創価大学	10時間 10分 09秒
4	法政大学	10時間 10分 18秒
5	神奈川大学	10時間 11分 47秒
6	上武大学	10時間 12分 12秒
7	拓殖大学	10時間 12分 36秒
8	國學院大学	10時間 14分 09秒
9	国士舘大学	10時間 14分 45秒
10	日本大学	10時間 16分 17秒
11	中央大学	10時間 17分 01秒
12	城西大学	10時間 19分 10秒
...		
30	東京大学	10時間 59分 51秒
NM	東京大学大学院	

## 2.2 個人結果

1 Patrick M.Wambui(2)	日本大学	58:15
2 Ledama Kisaisa(1)	桜美林大学	58:27
3 鈴木 健吾(3)	神奈川大学	58:43
4 Muthoni Muiru(1)	創価大学	58:51
5 Simon Kariuki(2)	日本薬科大学	59:06
6 Workneh Derese(2)	拓殖大学	59:34
7 石川 颯真(4)	日本大学	59:38
8 丸山 竜也(4)	専修大学	59:40
9 原 法利(3)	大東文化大学	59:44
10 山藤 篤司(2)	神奈川大学	59:58

...

## 【学部】

58 近藤 秀一(2)	東京大学	1:01:04
212 阿部 飛雄馬(1)	東京大学	1:03:27
323 張 恭輔(3)	東京大学	1:06:02
332 福島 洋佑(4)	東京大学	1:06:15
341 松本 啓岐(3)	東京大学	1:06:23
354 田村 和也(3)	東京大学	1:06:36
377 網谷 直紀(4)	東京大学	1:07:14
381 岩渕 康太(4)	東京大学	1:07:17
395 栗山 一輝(1)	東京大学	1:07:33
409 坂出 竜弥(4)	東京大学	1:08:00
424 織原 健人(4)	東京大学	1:08:24
435 大日方 孝輝(3)	東京大学	1:08:40

## 【院生】

238 渥美 祐次郎(M1)	東京大学大学院	1:03:55
479 原 知明(M2)	東京大学大学院	1:10:02
548 根本 雄平(M2)	東京大学大学院	1:12:41
555 池田 岳弘(M2)	東京大学大学院	1:13:08
559 筒井 隆徳(M2)	東京大学大学院	1:13:25
576 梁瀬 将史(D1)	東京大学大学院	1:15:50
577 張 仕穎(D4)	東京大学大学院	1:16:20
583 小南 直翔(M1)	東京大学大学院	1:19:10
伊藤 嘉宏(M1)	東京大学大学院	DQ
大内田 弘太郎(D2)	東京大学大学院	DNF

## 3. 長距離チーフの言葉

## 学部長距離チーフ 織原健人

この一年長距離チーフを務めさせていただきました、織原健人と申します。

去年、自分は予選会での東大記録更新のメンバーでもあり、来年はもっと記録を更新するということを思い続けていました。まず、去年の内は上手くいかないことも多く、上尾ハーフや荒川駅伝ではいい結果を収めることができませんでした。そんな中でも、春先の結果を夢見て、練習をもくもくと積んでいきました。この段階でトップ層練習設定は去年より高かったと思います。けが人も少なくよい雰囲気練習ができていました。日本学生ハーフでは、近藤の東大記録、福島さんの関カレ標準切りなど収穫も見られましたが、少し暑かったこともあり、もう一押しが出なかったと思います。そこから、トラックシーズンに入るところで、上位層を中心に多くの選手がベストを更新しました。そして、多くの一年生の加入があり、より一層活気づきました。そこから夏にかけては、トラック中心の練習がメインになり、T.Tなどで、中位下位層が、また3000mSCでも、しっかりとベストを更新できました。ただ、スピードの高まりや試合の数が増えてくることもあって、けが人や調子を落としている人が上位層を中心に目立ってきました。ただ、対校戦でしっかりと合わせる事が得意な選手が多く、四大戦以降の対校戦の連勝には、長距離の活躍が一役買っていたと思います。

夏合宿では、毎年以上の暑さの中、全体として練習自体は積んでいたと思います。

それ以降も暑さの中でもポイント練習はできていて、涼しい時の練習は去年以上の水準ではできていたと思います。

調整練習も選手はほとんど崩れることなく、むしろ直前で一気に調子が上がって行ったようでした。

本番の始まる直前まで、どこまでの記録ができるか楽しみな状態でした。

今回の結果は、暑さによるところが大きいと言ってしまえばそれまでですが、根本的な理由を考えると、今年に限ることではありませんが、走行距離が足りないことだと思います。そのため、少し暑くなると崩れてしまうということにつながるのでしょう。

今回のチームは確かにタイムを縮めることができるチームでしたが、もろさがあり、今回そのもろさが出てしまいました。

そのもろさを支えるべき自分がすぐに崩れてしまったことは、本当に情けないです。

この一年、長距離パートは考え努力し成長してきたと思います。対校戦でも頼りにされるようになり、上位層も厚く中位下位層の選手もどんどん速くなってきました。

その最後を良いもので締めくくることができませんでしたが、長距離の成長はこれからしっかりと次のチームの松本が形にし、更なる成長を起こしてくれるはずです。

チームとして一年間競技をしていると、どれほど自分達が恵まれた環境で競技に集中できているのかを改めて感じました。すべては、OB・OGの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。また、これからのさらに強くなっていく長距離にも変わらぬご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 院長長距離チーフ 筒井隆徳

院長長距離チーフを務めさせていただきました、大学院2年の筒井隆徳です。いつもお世話になっています。

チームの結果としては、10名全員が走り切ることができず(1名がDQ、1名がDNF)、記録無しに終わってしまいました。

チーフである私が標準記録を切るのに手一杯で、チームのことをあまり気遣うことができなかつたことが響いていると思います。チームのみんなにも、応援して下さった方々にも、誠に申し訳ないと感じています。

ここからは個人的な思いです。私は、記録が残るかどうか、いい記録かどうかは、出場できるかできないかに

比べれば、本当にどうでもいいことだと思います。もちろん、記録が残ればもっと嬉しかったし、もっと良かったらと思います。しかし、チームのことを考えると、みんなで予選会を走れたこと、東京大学大学院に入学すれば、箱根駅伝予選会を走れるということを内外に示せたことが大事だったのではないかと考えています。だから、私は院チームで予選会を走ったメンバーには本当に感謝していますし、今年も院チームとして出場することができたことを誇りに思っています。とは言っても、このまま弱い院生チームでいいのかとなると、そんなわけありません。卒業するため応援することしかできませんが、来年は強い院生チーム目指して頑張ってください。いい結果を聞けることを期待しています。

最後になりますが、私たちが素晴らしい環境の中で陸上競技をすることができたのは、代わりに様々な事務的な仕事を行ってくれ、また共に練習する環境を与えてくれる学部生のおかげであり、多大なるご支援・ご指導・ご声援をくださったOB・OGの方々のおかげであると思います。本当にありがとうございました。今後共、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

## 4. 出場選手の言葉

### 4.1 学部生

#### **福島洋佑(5年) 1時間06分15秒 332位**

昨年の予選会で19年振りに東大記録を更新。チームで歓喜に沸いたあの時、初めて心の底から「大学で陸上を続けてきて良かった」と思えて、「自分はまだまだ強くなれる」と信じたからこそ、この5年目が始まりました。そして5000mのタイムは1年前から48秒短縮して14分30秒、関東インカレや個人選手権にも出場し、近藤に次ぐエースとしてチームを引っ張っていく立場になれた、はずでした。その後夏頃から不調に苦しみ続け、不安を拭えないまま予選会当日を迎えてしまいました。暑さがあつたとは言え、7km過ぎから苦しい走りになってしまい、最後まで粘りきれないままゴール。66分15秒は、自分が果たすべき目標から4分近く遅い記録であり、チームの皆や応援してくれた方々に対して、取り返しのつかない事をしてしまいました。「取り返しのつかない」の文字通り、私にはこの失敗を挽回す

る機会がもう二度とありません。東大陸上部関係者の皆様への申し訳無い気持ちは勿論の事、5年分のたくさんの感謝を結果で表せず、皆様に伝えられなかった事が悔しくてなりません。こうした終わり方を迎えてしまった事は悲しいですが、この1年間は東大陸上部という組織で陸上競技をやる事の意義とありがたさを再認識する事が出来ました。最後の最後に結果で示せず、こうして言葉で埋めざるを得ないのがもどかしいですが、5年間東大陸上部で陸上をやらせていただいて、本当にありがとうございました。進路ですが、1年間の大学院進学となります。就職活動においてお世話になった先輩方に、この場を借りてご報告とお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

### **網谷直紀(5年) 1時間 07分 14秒 377位**

再度の東大記録更新に貢献すべく、昨年の自らの記録65分03秒を超えることを目標にしていました。関東インカレ標準切りを達成できなかった時から、ターゲットを箱根予選会一本に絞っていたこともあって調整はうまくいき、今年度最高の調子であることは間違いありませんでした。

しかし、そううまくはいきませんでした。例年に比べ暑かったこと、前日の夜あまり眠れなかったことが影響したのか、最初の3km余りで苦しくなっていました。中間層の団を一団を10km過ぎまで引っ張る予定でしたが、5km手前で集団を離れることになりチームに迷惑をかけ無念です。その後は何とか周りの落ちてくる選手を拾いつつ粘りました。予選会でなければ最後まで気力を振り絞ることはできなかったと思います。公園内のつらいところでも大きな声援が聞こえ、踏ん張ることができました。最後のレースでこのような結果になってしまい残念です。やはり陸上競技は甘くはなかったです。ごまかしがきかないのが陸上の厳しいところではありますが、だからこそいい結果が出た時の喜びは格別なのだと思います。このような素晴らしい大会で4回も走ることができた自分は幸せ者です。5年間お世話になりました。ご声援本当にありがとうございました。

### **岩淵康太(4年) 1時間 07分 17秒 381位**

学部生としては最初で最後の予選会。「4年生であるに

もかわらず経験も実績も無い私が出場することが、チームにとって果たしてプラスになるのか」という迷いがあり、来年、再来年と飛躍していくであろう後輩たちから貴重な経験の機会を奪ってしまったことに対し申し訳ない気持ちで一杯でした。しかし、代表選手に選ばれた以上、皆さんにとって応援する価値のある走りをお見せしなければなりません。出来る限りの調整をし、当日を迎えました。

ところが、いざスタートしてみると序盤から気温の上昇の影響を受け、思うようにペースを上げることができませんでした。さらに、中盤になると中堅層が総崩れになっていることが私の位置からも確認でき、下位層の自分が押し上げていかなければならない厳しい状況に。心身共に非常に苦しく、いつもの私ならとても耐えられなかったでしょう。しかし、この状況を打開せねばという使命感と、沿道の皆さんから頂いた沢山の応援が力となり、ラストまで粘り切ることができました。

タイムは67'17ということで、レース前に設定した目標のうち、C目標にすら届きませんでした。しかし、これは今の私にとって最大限の結果だったと思います。悔しい思いもありますが、それを上回るほどの達成感を得ることができました。

チームとしては、目標タイムはおろか東大最高記録に掠りもしない記録に終わりました。私は経験不足により「予選会を走る」ことに精一杯になってしまい、後輩たちに目を向ける余裕がなくなってしまったことを反省しています。また、昨年の予選会で東大最高記録を塗り替えた「成功体験」がいつまでたってもチーム内に蔓延しており、慢心している空気を変えるだけの力が私に無かったことが歯痒くてなりません。

私は無力でした。下級生に対校戦の棒を取られても、上級生から4年生の力不足について嫌味を言われても、それを覆すことが出来るだけの走力がありませんでした。後輩たちには、この情けない先輩を反面教師にして、文句のつけようが無い走力を培って欲しいと思います。陸上競技において、悩みを解決する一番簡単な手段は走力をつけることです。来年の立川で、淡青のユニフォームが快走する姿を、私に見せつけてください。

この箱根駅伝予選会では、今までに経験したことの無い沢山の応援をいただきました。部員の皆様、OB・OG

の皆様、応援団や後援会等の関係者の皆様、こんなしがないランナーの為に声を張り上げて頂き、誠にありがとうございました。来年は、大学院チームの一員として立川に戻りたいと思います。今後とも、宜しくお願い致します。

### **坂出竜弥(4年) 1時間 08分 00秒 409位**

10時間45分というチーム目標のため、個人としては65分以内に確実に抑えることが目標でした。

スタート前からかなりの日差しを感じていたため、序盤は前の集団が見える位置で少しペースを抑えつつ、終盤の落ち幅を抑えてしっかりタイムを出すというレースプランで臨みました。

しかし暑さへの耐性が弱いという弱点がここに来て如実に現れ、10km通過時点で既に苦しく、そこから1kmごとの消耗が激しくなり、公園内に入って完全に足が止まってからは応援の力でなんとか足を動かすしかなかったという形でした。

昨年の東大記録更新から1年、今年為すべきことはこの記録を新たに塗り替え、来年、再来年につなげる流れを生み出すことだと考えてきました。最後のレースでその一助を担いたいと思っていましたが、力及ばず、自分の実力不足を痛感するとともにメンバーに対しては本当に申し訳ないという気持ちであります。

ただ、今年上位に入った多くのメンバーがチームに残りますし、今回出場していないメンバーも着実に力をつけているはずです。

選手として関わることはできませんが、今後もその姿を応援していきたいと考えております。

最後になりますが、この4年間様々な場面でOB・OGの方々や清里町の方々、その他様々な方から応援、ご支援をいただいていると感じました。最後はこのような結果でしたが、本当に充実した4年間を過ごすことができました。このチームに入って良かったと心から思えます。ありがとうございました。

### **織原健人(4年) 1時間 08分 24秒 424位**

去年の予選会から、まず関カレ標準という中間地点を目指して練習を行い、そのあと予選会を目指すという目標でやってきました。1、2月と練習を積み3月の立川の

20km通過で64'16、残りの焼津ハーフに備えてみるもだんだんと暑くなっていく中で、練習はできていても、結果は出ず、結局標準切りは出ませんでした。ただ、そのころはしっかりと実力が伸びていくのを感じ予選会では62分近くを目標とするつもりでした。

春からのスピード練で、少し結果が出そうだなと思っていた時でした。気づいたときには、走り始めに太ももが痛かったです。ただ、練習も調子は良くないながらも設定を崩すことはなくポイント練習はできていました。ですが、間の日も痛いなど思いながらも何とかつないでいました。でも、ポイント練習は悪くなく、対校戦もあるため休むという選択肢を取れませんでした。

症状は、改善することなく、jogみたいな練習の次の日にも悪化して、どんどん悪循環でした。針やマッサージ治療も行いましたが、一度練習をすると、次の走りでは違和感が出ました。対校戦は四大までは何とか最低限は守れたかなという感じでした。治療をしながら練習を積みましたが、七大は本当に酷い結果でした。そのあとの夏合宿では、休ませてもらって無理のない範囲で練習を積みましたが、距離走ですら違和感が出る始末でした。秋合宿あたりで、もうやるしかないと決心して、多少無理して練習をしました。秋合宿で違う場所を怪我したものの、何とか復帰しました。そこからこれまでの3年間の感覚からして、この設定でできれば本番3'12でいけるという練習は何とかできました。

1週間前の、距離走のあと少し体調を崩しましたが、火曜のポイ練がしっかりとできていたし、引っ張りではないので行けると思い、補欠との変更をやめ、本番に臨みました。

アップの感じは悪くなかったのですが、太陽が本当に邪魔でした。焼津ハーフも同じくらい暖かかったので、少し目標を変えようかと思いましたが、それは10km以降でいいかと思ってしまいました。

水分が足りなくなりそうだったので、意識してとってスタートを迎えました。

最初の1,2kmは普通に走れていました。3km過ぎたあたりからこれでは20km持たないと理解しました。ペースも落ち始めていたので、無理せず、3'15あたりで行きたいと思いながら5km。ペースは悪くなかったのですが、

余裕度が低すぎました。それに加え給水をとってもすぐにのどが渇き、これは良くないと思いました。

そこから10kmまでの段階で大分きつくなり、後ろの集団に抜かれました。

そこから、日陰があったので少し余裕が戻り、抜かれた集団を追いながら間を維持して走って行きました。水分も不足しているなど思いながら、何とか耐えながら公園に戻ってきましたが、もう余裕がなく、走りが全くのすることはありませんでした。

原因としては、けがによる走行距離の低下もありますが、焼津ハーフの失敗もある中で、自分は暑い中に向かないことをすぐに考え設定の修正を行うのが、あの場では唯一の方法だったと思います。

この試合で結果を出すために、4年間やってきたと思っていましたが、このような結果となってしまう、まだ受け止め切れていないのが本音です。

この4年間、特に怪我のあった2年と4年は楽しいことばかりではありませんでしたが、OB・OGの皆様のご支援ご声援のおかげで、部活に集中して努力を続けることができました。本当にありがとうございました。

### **張恭輔(3年) 1時間 06分 02秒 323位**

私は今年が3年目にして初めての予選会でした。走る前は64分半～65分を目標としていました。当日は6人程の集団で、キロ3分12秒ペースで10キロまで行き、その後は粘って65分以内にまとめる予定でした。予選会当日は良く晴れて陽射しが強く、少し暑さも感じたので最初から予定のペースより遅くなってしまいました。私は15キロまではあまりペースを落とさずに走れましたが、最後の公園内の5キロで大幅にラップを落としてしまい、結果的に66分2秒でゴールとなりました。目標タイムには及びませんでしたが、現状の中では自分としてはうまく走れたので今回の結果にはある程度満足しています。ただ、これで満足することはできないので、来年度も出場して今年とは比べ物にならないくらいのタイムで走りたいと思います。最後になりますが、応援してくださった東大関係者の皆様には大変感謝しています。とても力になりました。ありがとうございました。

### **松本啓岐(3年) 1時間 06分 23秒 341位**

昨年は早々にメンバー入りを果たしていながら、夏合宿の終盤に大腿骨を疲労骨折し、予選会当日に間に合わず大変悔しい思いをしました。

後遺症等含め故障が完治するまでには10ヶ月を要しました。7月から本格的に練習を積めるようになり、秋合宿までは順調でしたが、その後腸腰筋を傷め、ギリギリの状態で大番に間に合わせることとなりました。

9月の前半まではよく練習が積もっていて、練習の設定等を考慮すると合宿の段階では63分台も目指せる状態でしたが、1週間前に状態を考慮して64分台で走ることを目標とすることに決めました。ところが、直前に体調を崩してしまい、当日も朝から身体が熱っぽく、息が苦しい状態でした。加えて当日は想像以上に暑かったため、予定より抑えて3'15"で走り出しました。

しかし、直前期の練習不足も相まって余裕を持つことは出来ず、10キロ通過は32'40"。呼吸は苦しかったものの、この段階ではまだ脚は残っていて、公園内に入ってからしばらくは3'15"までペースを戻すことができましたが、終盤になって脚が止まり3'30"までペースが落ちてしまいました。

実力を発揮できる状態を当日に合わせることができなかったことが悔やまれます。

精神的な要因が大きかったように思われます。昨シーズンの故障の影響で今シーズンは満足のいく結果を残せておらず、それが焦りにつながりました。

ここから来年の予選会を見据えて長期的な展望を持ち、着実に力を伸ばしていきたいと思います。

今後は3月の立川ハーフでの関カレ標準突破を目標として練習していきます。

応援サポート等ありがとうございました。

### **田村和也(3年) 1時間 06分 36秒 354位**

朝早くからのサポート、沿道での応援、本当にありがとうございました。たくさんの方に支えられて走ることができました。心より感謝申し上げます。

今回の結果に関しましては、正直なところ満足できるようなものではなくありませんでした。個人の目標タイムには1分以上及ばず、東大記録更新ともなりません

た。この1年間、予選会を一番の目標として練習を積んできて、全てをぶつける思いで臨みましたが、思うような結果が出ず、非常に残念です。

結果が出なかった原因として、「実力を伸ばす努力ができなかった」ことが挙げられると思います。自分の練習の取り組み方に甘さがありました。追い込むべきところで自分を追い込むことができませんでした。また、陸上が仕事のようになり、結果を出すことを義務のように感じてしまい、陸上を心の底から楽しむことができなかったことも原因として考えられます。

このままでは来年また残念な結果に終わってしまうと思います。来年は最終学年として笑って終われるように、覚悟を持って練習に取り組んでいきたいと思っています。今後とも応援よろしく願いいたします。

### 大日方孝輝(3年) 1時間 08分 40秒 435位

今年で3回目の予選会でしたが、一番悪い結果になってしまいました。原因は夏合宿前に調子を大きく崩し、そこから思うように練習を積みできなかったことです。焦って少し練習量を増やして痛めての繰り返しで、秋のメンバー決めの一戦選考会後にも少し怪我をし、予選会には何とか間に合ったという状況でした。

調子はしっかり合わせられ、当日のアップではいい動きができていました。晴れて暑さを感じましたが、暑さが苦手というわけではないのでそんなに気になりませんでした。レースプランは、最初の10kmは16分25秒から30秒くらいで入り、得意の後半でペースを上げるもしくは維持するという予定でした。スタートして最初の5kmは余裕があり、10kmまでは10人くらいの集団について走っていました。この時点ではある程度余裕があり、後半に少し上げられそうだと感じていました。しかし、10kmあたりで足裏の前足部にマメが出来てきて力強く踏み込めなくなり、フォームやリズムが崩れてしまいました。そこからはかばうような走りになり、重心が後方にいってしまい、ペースを戻せず終わってしまいました。12番目でゴールして、チームのタイムに貢献できずとても申し訳なくなりました。

夏合宿以降の練習でスピードは戻ってきたものの、長

い距離の練習を思うように積めず、その結果20kmのレースに耐える脚作りが出来ていなかったためにこのような結果になってしまいました。夏合宿で焦って早く全体練習に参加するのではなく、先を見据えて短い時間のジョグから徐々に増やして着実に脚力の土台を作っていくような練習を積んでくれば結果は変わっていたと思います。

今回、最初の10kmが33分フラットくらいで昨年よりも若干速かったのですが、それでも余裕があったので昨年に比べて短い距離の実力はついてきていると思います。もう一度練習をしっかり積んで脚の土台を作り、来春の立川ハーフで自己ベストを更新、そして関東インカレに出場を目標に頑張っていきたいと思っています。沿道からの応援は本当に力になりました。どうもありがとうございました。

### 近藤秀一(2年) 1時間 01分 04秒 58位

箱根予選会では多くの応援をありがとうございました。

当日に向けて充実した練習はできていたものの、直前に体調を崩してしまい不安の残る状態で本番を迎えてしまいました。

結果は、タイムは昨年よりやや遅く、1年間の成果を示すことができませんでしたが、最低限のラインでは踏み止まれました。皆さんの応援やサポートのおかげです。心残りなのはチームを引っ張って来てくださった先輩方の努力を報いることができなかったことです。今回のような失敗がないように、今後はひとつの大会にしっかり合わせることを一層心がけて取り組んでいきます。

また、今回の結果で関東学生連合に選出していただいたので、本戦を走らせていただけるように準備を進めていきます。

これからも応援よろしく願いいたします。

### 阿部飛雄馬(1年) 1時間 03分 27秒 212位

今年1番の目標としていたこの予選会で実力を100%発揮できたことにはひとまず安心しています。しかし実力を出し切ってもまだまだ未熟なレベル。数年後の箱根本戦出場を視野に入れると、喜べるレベルではありません。一方でこれからハーフを本格的に専門にし、経験を積んでいけば、今はまだ遙か先の世界にも手が届くので

はないかという確かな感触を得ることができました。東大をチームとして箱根本戦に導けるような真のエースに成長します。

### **栗山一輝(1年) 1時間 07分 33秒 395位**

この箱根予選会で初めて対校選手として試合を走らせていただいたわけですが、満足のいく走りができたとはいいたがたいです。5kmから折り返しまでが実際よりもずいぶん長く感じられ、その間にペースが落ちてしまいました。公園内に入ってから応援の多さに後押しされいったん元気になったものの、ラスト3kmほどでまたガクンと落ちてしまい経験不足が露呈したように思います。ただ今回走ってみて得ることは多かったです。来年以降、確実にステップアップしていけるように、これからも練習を積んでいきます。応援していただきありがとうございました。

## 4.2 院生

### **張仕穎(D3) 1時間 16分 20秒 577位**

去年引退し、博士研究に集中して以来、ほとんど練習していませんでした。夏頃、院生チームで標準記録を突破した人がまだ7人しかいないと聞いて、エントリーに手伝いましたが、なかなか練習する余裕がなくて、このまま出場してしまいました。

スタート後すぐ、最後尾に落ちてしまい、みじめな姿を皆に見せてしまいました。こんな私にも応援の言葉をかけてくれた皆さんには、本当に感謝しています。その一つ一つの「頑張れ！」が力になって、私をゴールまでに運んでくれました。

今年はチームの成績に貢献できなくて、本当にすみませんでした。もう選手としていられませんが、サポート側で、東大陸上を支えていこうと思います。何時か、学部チームも院生チームも、箱根駅伝本戦に出場できることを願っています。

### **大内田弘太郎(D2) DNF**

このたびは、私が完走できなかったせいで、大学院チームにとって大変不名誉な結果を残してしまったことを心からお詫びいたします。応援・サポートして下さった現役部員の皆様、OB・OGの皆様、誠に申し訳ありませ

んでした。レース状況を説明します。走り始めた直後から、体が思うように動かず、嫌な予感がありました。それでも公園に入るまでは、完走できるつもりでいました。13km時点を過ぎたあたりから喉の渇きを強く意識し始めました。最後の給水ポイント(16km)で水を多めに摂取したのですが、その時には既に視界がちらつき始めていて、危険な状態に達していました。それでも、残りあとわずかで、東大内外の色々な人の声援に背中を押され、走ったり止まったりを繰り返しながらも、何とか前に進み続けました。しかし、あと1.5kmの所で時間制限が近づき、医務車にストップをかけられ、救護テントに運ばれてしまいました。どうやら脱水症状だったようです。

応援に全く応えることのできなかった自分が情けなさ過ぎて悲しいです。一番反省しなければならないのは、冷静に考えて出られるような状態じゃなかったのに、20kmなら練習しなくても走れると自分の体力を過信し、出走を決意してしまった点だと思っています。きっと今回どのように走っても同じ結果になったでしょう。一番の原因は明らかに練習不足でした。試合前日に博士論文中間発表会という、非常に重くて重要なイベントを迎え、この日までの二週間でかなり無理をした生活を自分に強い、体調も崩していました。研究進捗が芳しくない以上、発表準備にそれなりの時間を割かねばならず、まともに練習した状態で挑めないことは最初から分かっていました。だからといって、メンバーがギリギリなこの状態で、予選会に憧れ今回が最初で最後の出場となる筒井や根本のことを思うと、標準を切っている自分が出場しないわけにもいきませんでした。でも、結局、そういう中途半端な情けや心の甘さが、結果的に周りに迷惑をかけ、自分自身も傷つける結果を招いてしまったと言えます。予選会は、一年間本気で練習をしてきた選手だけが挑むことの許される神聖な試合ですし、応援もそれ相応の規模です。私に足りなかったのは責任感です。出るなら忙しくても責任を持って練習する、それができないのなら後輩達を説得して出場を辞退する、そういったはっきりした態度を取るべきでした。最初から私にこの苦渋の決断から逃げる選択肢など無かったのです。

卒業生の皆様はどう思いますか。ちゃんと練習できる人が揃わないのにただ出場し続けるだけのこの状況に、本当に意義があったのでしょうか。人数さえ揃えば無条



件に出場して良かったのでしょうか。別に、出場を否定しているわけではありません。ただ、私が言える立場ではありませんが、次世代を担う大学院チームにも、その点からもう一度考え直してみたいと思います。

### 梁瀬将史(D1) 1時間 15分 50秒 576位

7年連続7度目の予選会(6回目の出走)はゴールするだけで精一杯でした。博士課程に進学してから研究で思うように結果が出せず、次第に研究に専念しなくてはならないという状況に追い込まれてしまいました。その結果、準備不足のままスタートラインに立たなくてはならなくなり、非常に情けなく歯がゆい思いです。

正直に言って、今年は予選会への出場を辞退した方がいいのではないかという葛藤があったのですが、自分が走らなくてはチームとして参加できないというチーム事情や筒井主将の苦労は分かっていたので、恥をさらす覚悟で確実にゴールすることに専念しました。チーム記録が残らなかったことは残念ですが、9月に筒井主将が予選会標準記録を突破するまでチームとしての出場も危ぶまれていた状況を思うと、感慨深いものがあります。

皆さま、最後までご声援ありがとうございました。当日は多くの先輩方、同期、後輩たちに応援してもらえて非常にありがたかった。

来年が正真正銘の最後の予選会となります。胸を張ってゴールできるよう、この悔しさを胸に刻んで、しっかり準備したいと思います。

### 原知明(M2) 1時間 10分 02秒 479位

修士2年の原知明です。6回目にして最後の予選会、皆様のご支援のおかげでどうにか走りきることができました。誠にありがとうございます。自分よりいくつも格上のランナーたちと20km本気で戦うことのできる貴重な大会に6回も出場できたことに感謝し、光栄に思います。

当日は予想に反して日差しが強く、体への負担が大きくなることが予想されたにもかかわらず、当初の予定通りのペースで5km地点までレースを進めてしまったことが災いし、その後は全く余裕のない走りをお見せしてし

まいりました。今までの経験から稼ぎどころと捉えていた8kmから12kmの間でも、喉の渇きを強く感じて無意識に体力を温存してしまい、失速していることにすら気づくことができず、改めて冷静になってみると悔いの残るレース展開でした。

チームとしての記録が残らず、初出場の東工大院にも力の差を見せられ、私個人の成績も酷いといかないような結果に終わってしまいました。私は(そして恐らく今年のメンバー全員が)今年の出場が無意味だったとは全く思いません。なぜなら、今年の予選会は、昨年以上に厳しいチーム事情からのスタートだったにも関わらず、「なんとしても予選会を走りたい」というメンバーの思い、忙しいにも関わらず人数不足と聞きつけて出場を決めたメンバーの思い、そして出場のための各々の努力がきちんと実を結んだ大会だったからです。予想外のトラブルも多々ありましたが、それらをすべて乗り越えて立川のスタートラインに並ぶことができたというだけでも報われた気持ちになりますし、ついに念願の出場が叶った筒井や根本、他の出場メンバーや院生チームに携わってくださった方々が「予選会楽しかったなあ」と思ってくれるのであれば、最高に嬉しいです。

私の予選会はこれでおしまいです。大学院チームは来年度も予選会を見据えて再び走り出しています。今後は私も1人のOBとして(何事もなければ愛知県庁クラブで陸上は続けているはずです)、応援していきたいと思えます。この部だよりをご覧になっている皆様も引き続き大学院チームをお見守りくださいますよう、お願い申し上げます。

6年間もの長い間、本当にお世話になりました。予選会楽しかったです。

### 根本雄平(M2) 1時間 12分 41秒 548位

大学3年時、箱根駅伝予選会に「東京大学大学院」が出場していることを知り、たった一度の人生、憧れの箱根駅伝に予選会でもいいから走りたいと、大学院受験を決意、昨年、念願叶ってこのチームへ入部しました。しかし、膝を怪我してしまい昨年は出走することは出来ませんでした。そして、ようやく今年、箱根駅伝予選会を走ることができました。

昨年の秋に標準記録を突破し、5000m15分台まで戻し

たところまでは順調だったものの、年明けから研究や就活で満足いく練習ができず、院生で予選会を目指すことの難しさを知り、夏の院生合宿からようやく走り始めました。しかし、スタートラインに立てば、結果が全てなので自分のできる最善を尽くし予選会へ備えました。怪我への恐怖心から練習は主として5km~12km程度を速めのペースで走ることで心肺機能を鍛え、あとは長めのジョグでつないでおり、練習の感覚的には68分~70分程度の走力はあると感じ、うまくはまれば68分を切れる感覚で当日を迎えました。

当日、昨年とは違い自分が選手として走る立場では会場の雰囲気は全く異なるように感じ、非常に高揚感を覚えました。スタートして1km、時計を見ると3分11秒・・・そこから少しペースを落ち着けて5kmの通過は16分33秒、速いかなと思い、ペースを意図的に落とそうと思うも8km位から段々脚が動かなくなり、公園内に入った時には走りがバラバラになり、そこからは立て直すことができずジョグのようなペースになってしまいました。当日のコンディションが暑く、ペースを落とすという認識できていなかったことに加え、会場の雰囲気に飲まれてしまい冷静さを欠いたレース運びになってしまったことが、このタイムの要因だと思います。日が経つにつれてもう一度走りたいという想いが込み上げてきますが、今回、予選会を走ることができ、本気で「この舞台を走れてよかった！」と思えました。タイムは満足いくものではなかったものの、最高の雰囲気の中でたくさんの方々に応援していただき走れたことは私の人生において大きな財産になることは間違いないでしょう。この予選会を目指して東大大学院へ進学して良かったです。

最後に、部員をはじめOB・OGの方々、応援・サポートをしてくださった皆様、そして共に予選会を目指した院生チームの皆様には本当に感謝しています。これからはOBとして後輩たちを全力で応援していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

### 池田岳弘(M2) 1時間 13分 08秒 555位

予選会に合わせてピークを持ってきて、全力を出し切ることができたので満足しています。

箱根駅伝予選会は就職活動が終わった6月から意識し

ました。去年のタイムは70分33秒であったので、今年は去年より1秒でも早く走りたい、出来るなら70分を切りたい、と常に考えていました。この目標を達成するために、6月から毎日40分ほどのジョギングを行うようにしました。そして9月から毎日60分ジョギングと週1日のポイント練習を継続しました。しかし練習不足のため目標は達成することが出来ませんでした。ただ、着実に走力がついてきているので悲観はしておらず、むしろ今後練習に励もうという気持ちが強くなりました。

予選会では自分の持っている力を出し切ろう、という気持ちで臨みました。3分35秒で最初の13.4kmまで粘って、そこからは根性でそのペースを維持して走り切ろう、という作戦でした。また暑かったので、給水は毎回とることに決めていました。去年も走ったコースなので、コースに対する心配はありませんでした。

走り始めると、思いのほか体が軽く最初の5kmは3分30秒ほどのペースで快調に走ることが出来ました。5km~15km付近まで特に何も異常がなく走っていましたが、ペースは自然と3分40秒に落ちていました。私は後半で体力がなくなって力尽きてしまうことを心配していたので、15km付近までは全力を出さないように抑えていました。15km付近からそろそろラストスパートをかけようと考えていました。15km付近から応援される度に全力で走りましたが、それは10秒ほどしか持たず、元のペースに戻りました。そのため、応援の度に速くなり、10秒過ぎると元のペースに戻るという繰り返しで20kmに到達しました。ただ、前に筒井を発見した時は負けられないという気持ちが強くなりました。ラスト位全力を尽くして後悔のないレースにしようと思いながら走っていました。

最後になりましたが、小さいころから長い距離を走ることが好きであったので、大学院に入って、強くなれる環境と強くなれる環境と予選会のような大会に出られる機会に恵まれて感謝しています。また、サポートや応援には大変感謝しています。お忙しい中貴重な時間を使ってくださった方、北海道から来て下さった方、遠くから気にかけてくださる方がたくさんおり、素晴らしい部活動に恵まれたと思います。ありがとうございます。

### 筒井隆徳(M2) 1時間 13分 25秒 559位

6年目で初めての予選会。今までで一番、応援される

大会。最高の走りをしたいと思っていました。調整もうまくいっており(土曜日 3' 35 で 14km、火曜に 3' 30 で 6000、木曜に 2000 が 6' 35)、気合も入っていた。無難に走れば 71 分は切れる、順当なら 70' 30、よく走れば 70 分切るくらいかなと見積もっていました。

実際のレースは、最初、気持ちよく入って、公園内の応援にも乗って、5km 通過が 17' 10。でもまだ余裕がありました。けれど、まだ先は長いし余裕を持ったほうがいいなと思いました。市街地に入り、やたら抜かされるも、どうにもついていけなくなっていました。やばいかなと感じたが、とにかく余裕のある走りをこころがけました。10km 通過で 35 分ちょい。これは失敗したかなと感じました。

この辺から、余裕も失い始め、応援でたまに復活したりしながら、公園内へ。公園内ってこんなにきつかったかなと思ひながら、15km。18' 50 って見て、なんだこりゃと思う。あげなきゃと思うも、足にもう余裕がありませんでした。

坂のアップダウンは、とにかく上り、とにかく下る。切り替える余裕はなく、応援のおかげで、足が動く、切り替わる、本当にそんな感じでした。気づいたら 10 分経っていて、もうちょいと思いました。ラスト 1km 通過し、スパートという声が聞こえ、応援団の応援も聞こえ、スパートしてゴール。

結果としては、明らかな失敗レース。完全に雰囲気に乗って、そのまま走ってしまいました。人について走って、足を温存して、ひたすら粘るという基本的な走り方を忘れていました。恐ろしいことに 3 月の立川ハーフの 20km 通過のほうが 1 分近く早い。もっともっと走れるはずだと思いました。

ですが、予選会を走れて本当に良かったと思います。今、レースを振り返って思うことは、遅いとかきつかったとかじゃなく、あんなに応援されて、あの中で走れて楽しかったということです。公園内で経験した、応援で足が進む感覚は初めてでした。きついし苦しかったけれど、本当にすごかったです。想像以上で、経験しないとわからないってやつだと思います。5000m を引っ張ってくれた妹背、8 月に練習メニューなど面倒を見てくれた渥美などなど、本当に色々な人におんぶにだっこで、標準記録をぎりぎり切れて、なんとか出ることができた予

選会。走れて、本当に良かったと思っています。

初心者から始めた陸上生活でした。最初の 1000mTT は 3'41、5000m は 20'04 と本当に遅かったです。そのあともなかなか速くならなかった。でも、周りの支えのおかげで、少しずつ速くなることができました。陸上をやりに続けることができました。学部でも、大学院でも本当に楽しく走ることができました。陸上部に入ったこと、学生生活の中心が陸上であったことにかげらほどの後悔もないです。本当に本当にありがとうございました。来年は、予選会の応援に行くので、カッコいい姿を見せてください。期待しています。

応援してくださった方々、本当にありがとうございました。もしよろしければ、今後とも大学院チームの応援、よろしくをお願いします。

### 渥美祐次郎(M1) 1 時間 03 分 55 秒 238 位

5 回目の予選会でした。大学院に入って対校戦がなくなったので、今年はこの予選会だけに絞って練習してきました。目標には届かず、悔しい結果となってしまいましたが、競技を続けてきたことに後悔はありません。OB・OG の皆様や部員のサポートのおかげで、今年も走ることができました。私にはあと 1 年半の学生生活が残っているので、満足のいく結果を残して終わられるよう、今後も努力をしていきます。

### 小南直翔(M1) 1 時間 19 分 10 秒 583 位

大きな責任はミーティングや壮行会にも参加できなかった私にありますが、今回の院生チームはチームとしての目標や共通見解を共有できないまま個人がただ走るだけの予選会となってしまったと感じています。

大学院チームが予選会に出場する意義として、大学院チームから関東学生連合へ選抜されることと学部生に迫ることによって学部生チームを鼓舞することがあると思います。学生連合は個人の目標であるため、10 人がスタート地点に立った時点で下位メンバーの多くは完走以外の目標を失っていたように思います。

私は専門の中距離種目に専念しながらになりますが、来年以降は大学院の選手が学部生に肉薄することで少しでも学部生の東大記録更新、箱根駅伝出場の一翼を担うことができればと考えています。たくさんの応援ありが

とうございました。

最後に今年1年間院生チームをまとめながらも申し込み10日前に標準を突破し、念願の予選会初出場を果たした筒井先輩に敬意と感謝の意を表したいと思います。

## 伊藤嘉宏(M1) DQ

学部の頃からずっと応援側でしたが、院に進んで初めての箱根予選会を走るということになりました。半ば人数合わせという側面もあり、10人しか走らない中自分が走力的に一番劣っていたので、院チームとして記録を残すため最低限走りきることを目標としていました。時間のボーダーラインもあったため序盤は攻め気味で走り、中盤のボーダーを超えるまでは身体の調子としては悪くなく、行けると思ったのですが半分を超えたあたりで急激に失速し、その後は身体が全く動かなくなりました。結局最下位、時間もオーバーしてしまい、学校の恥を晒すという最悪の結果を残すことになってしまいました。結局自分がした仕事はスタートラインに立ったという一つのことのみであり、本当に申し訳ないです。来年はちゃんとメンバーも集まり、いい記録を残せることを期待しています。応援ありがとうございました。

## 5. 新長距離チーフの言葉

### 学部新長距離チーフ 松本啓岐

長距離3年の松本です。これから1年間長距離チーフを務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。今年の子選会ではチームとしても思うような結果を残すことができず、大変悔しく思っております。今回の結果を重く受け止めた上で、新チームの強化に専心していきたい所存です。

何が足りなかった、何がいけなかった、などと後から論うことは簡単です。しかし、これまでやってきたことが正しかったかどうかを、結果が出たかどうかでしか判断しないのは正しくありません。そのことに注意した上で、今回の予選会の反省を今後へ生かしてまいります。箱根駅伝本戦出場までは、あと40分という茫洋な距離が存在します。その状態で本戦出場を目指すことは現実的ではありません。かと言って、本戦出場を全く目指すこ

となく予選会に挑むのも正しい取り組み方ではありません。

そのため、まずは5分、10分と距離を縮めていくことが先決となります。今年は東大記録を更新することができませんでしたが、ここからの1年間は記録を10分以上縮めることを最大の目標として練習に励む所存です。

長距離パートはこの数年で着実に力をつけてまいりました。しかし、底上げが十分にできていないとは言えません。5000mのタイムで言えば、まだ16分台の選手でも補欠ながら予選会のメンバーに入ることができています。また、予選会標準の16'30"を切ることができていない選手も下級生を中心に少なからずいます。

こうした選手をより高いレベルに引き上げることこそ、私が最も目指したいことのひとつです。

距離が長くなればなるほど、「練習すればなんとかなる」範囲が広がります。私自身高校時代は16分台の選手でした。現在、20kmで言えば私も新チームの中では3,4番手であり、何より私には自分が「凡庸な選手でも練習を積めばそれなりに速くなれる」モデルケースである自負があります。

この陸上運動部を見てきて感じていたことですが、個々の自由度が高いという環境は、選手として自立している選手にとってはこの上なく良いものである一方で、そうでない選手たちにとってはただなんとなく競技を続けて競技生活を終えかねない環境です。

今回チーム内1位の近藤、2位の阿部は高校時代から自立した活躍を見せていましたが、強豪出身ではなく、自分で考えて練習をしてきた経緯から、選手としても自立しているように思われます。そのため、この陸上運動部の環境で伸び伸びと過ごし、自分流のやり方で力を伸ばすことができています。もちろん、彼らだけではなく、この環境のもとで力を伸ばすことができていない選手は沢山います(私もその1人です)。

個人個人がもっとこの環境の良い面を理解し、享受し、自分の可能性を高めることに生き生きと取り組み、結果として各人が力をつけていくこと、これこそが私の目指すことのひとつです。

新チーフの言葉ということで文章を載せていただいておりますが、こういう場ではどうしても話が抽象的になってしまうことをお許しください。具体的に何をするべ

きなのか、それが1番大切であることは重々承知しております。

幸いにしてこの長距離パートのみんなは陸上が好きで、合宿では寝ても覚めても陸上の話をし、お互いに本音を言い合って語り合える間柄です。「練習には正解はない」前々チーフの渥美先輩の言葉ですが、自分たちで見つけた答えが自分たちにとっての正解となれるよう、妥協することなく話し合った上で練習に取り組んでいきたいと思っています。

私どもの活動は OB・OG の皆様の温かいご支援があってこそ成り立つものです。この場を借りて感謝申し上げます。今後ともよろしくごお願い致します。

### 院生新長距離チーフ 岩淵康太

新しく院生チーフを拝命致しました、4年(薬学系研究科進学予定)の岩淵です。これから一年間宜しくお願い致します。

今年の院チームは記録無しという厳しい結果に終わりました。このような結果に陥ってしまった原因は、純粋な選手不足にあったと思います。今年度の部員不足は深刻であり、競技から暫く離れていた部員も動員しなければならぬ有様で、スタートラインに立つ前から絶望的な状況でした。筒井さんが学部と院を通じて初めて標準切り&予選会出場を達成したことは非常に嬉しいことでしたが、今年の院生チームに立ち込める暗雲を晴らすにはそれだけでは不十分だったと思います。

一方、東京工業大学では大学院チームが初出場ということで、ニュースに取り上げられるほどの話題を呼びました。彼らはトライアスロン部と連携し、メンバー集めに奔走したと聞いています。我々も、「毎年出ているから」と胡坐をかいていられる状況ではありません。現 M1 は深刻な選手不足であり、M2 からは根本さん、池田さん、原さん、筒井さんの 4 人が卒業してしまいます。現 B4 からは長距離 5 人+中距離 1 人が大学院に進学しますが、それでも十分であるとは言えず、部員不足は続くと思われされます。

例年、外部の大学から東大大学院に進学してきた人をターゲットに新歓活動を行ってきましたが、来年は裾野を広げ、トライアスロン部やマラソンサークルを中心に、学内の他団体にもアプローチをかけていく予定です。何

としてでも選手を集め、来年の箱根予選会で院生チームが活躍する姿をお見せしたいと思います。

通常と異なり、新 M1 である私がチーフを務めるということで、研究活動との両立についてやや不安を抱えております。実験との兼ね合いにより、チーフとしての活動が困難になることもあるかもしれません。しかし、幸いなことに私には、これからも陸上競技に積極的に取り組んでいこうと意気込む同期たちがいます。彼らと連携すれば、苦難も乗り越えられると確信しております。

最後になりますが、OB・OG の皆さま、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

## 6. 自己記録更新者一覧

### 10/16 第5回日本大学競技会

100m	田中絃太(2年)	11"78(+0.4)
100m	山田大生(1年)	12"20(+0.7)
三段跳	毛利冬悟(2年)	13m53(+0.1)

### 10/22.23 第253回日本体育大学長距離競技会

800m	坂口諒(2年)	1'57"50
800m	早川航平(3年)	1'57"55
800m	若杉亮(1年)	1'58"71
800m	八ツ本真司(1年)	2'02"64
1500m	松原新(1年)	4'22"22
1500m	黒岩道子(2年)	5'07"78
10000m	須藤克誉(3年)	32'57"00

## 7. 2016年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

### 男子 100m

1	西村智宏(4年)	10"56(+0.8)	10.1
2	藤田旭洋(5年)	10"63(-1.2)	5.8
3	泉悠太(5年)	10"74(+2.0)	3.19
4	松本大樹(4年)	10"90(+0.7)	5.29
5	稲葉啓人(5年)	10"98(-0.9)	5.19

### 男子 200m

1	藤田旭洋(5年)	21"29(+1.4)	7.31
---	----------	-------------	------

2 西村智宏(4年)	21"37(+1.4)	7.31
3 稲葉啓人(5年)	21"75(-0.4)	10.1
4 泉悠太(5年)	21"84(+1.6)	6.19
5 松本大樹(4年)	21"90(+2.0)	7.31

**男子 400m**

1 森本淳基(4年)	48"83	6.19
2 河野太郎(3年)	49"64	10.1
3 箕島頌(4年)	49"94	6.19
4 藤田健一(4年)	50"19	5.1
5 加来宗一郎(4年)	50"52	3.19

**男子 800m**

1 軽部智(4年)	1'51"81	8.7
2 加藤騎貴(4年)	1'54"49	4.23
3 妹背雄太(3年)	1'55"57	6.25
4 福島洋佑(5年)	1'57"12	6.19
5 小野康介(1年)	1'57"28	10.1

**男子 1500m**

1 近藤秀一(2年)	3'52"16	7.31
2 軽部智(4年)	3'55"05	3.20
3 西川拓(5年)	3'55"72	7.31
4 妹背雄太(3年)	3'55"74	5.29
5 福島洋佑(5年)	3'56"43	5.7

**男子 5000m**

1 近藤秀一(2年)	14'03"63	9.25
2 福島洋佑(5年)	14'30"73	4.24
3 阿部飛雄馬(1年)	14'53"35	6.24
4 妹背雄太(3年)	15'13"34	5.15
5 織原健人(4年)	15'14"50	4.2

**男子 10000m**

1 近藤秀一(2年)	29'22"82	4.23
2 織原健人(4年)	31'44"89	4.23
3 阿部飛雄馬(1年)	31'52"26	6.25
4 田村和也(3年)	32'10"31	9.18
5 福島洋佑(5年)	32'21"43	9.18

**男子 110mH**

1 杉森康平(6年)	15"44(+0.8)	7.31
2 加来宗一郎(4年)	15"79(-0.7)	5.19
3 寶田雅治(3年)	15"99(+0.7)	4.2
4 中尾幸志郎(1年)	16"11(+1.1)	8.27

**男子 400mH**

1 加来宗一郎(4年)	54"31	7.31
2 越村真至(5年)	56"27	4.2
3 中尾幸志郎(1年)	57"63	10.1
4 松田光陽(1年)	59"12	10.1
5 今井樹宏(3年)	63"96	5.29

**男子 3000mSC**

1 福島洋佑(5年)	9'16"96	5.20
2 阿部飛雄馬(1年)	9'26"31	6.19
3 荒田彰吾(4年)	9'43"35	4.2
4 張恭輔(3年)	9'45"92	6.19
5 福永亮(3年)	9'50"47	6.19

**男子 5000mW**

1 渡邊成陽(4年)	20'43"63	5.29
2 堀江駿(2年)	21'43"33	10.1
3 棟重賢治(3年)	21'43"78	10.1
4 宇野文貴(4年)	22'09"42	5.29
5 櫻井悠也(4年)	22'56"52	10.1

**男子 10000mW**

1 渡邊成陽(4年)	42'00"47	5.21
2 堀江駿(2年)	44'58"82	9.18
3 宇野文貴(4年)	45'09"14	3.19
4 棟重賢治(3年)	46'24"64	4.30
5 櫻井悠也(4年)	47'29"20	4.30

**男子 4×100mR**

1 泉(5)-西村(4)-松本(4)-稲葉(5)	40"46	10.1
2 泉(5)-西村(4)-松本(4)-藤田(5)	40"66	5.21
3 小嶋(2)-稲葉(5)-松本(4)-藤田(5)	41"46	4.2
4 藤田(4)-小嶋(2)-河野(3)-松本(4)	41"78	7.31
5 後藤(3)-藤田(4)-松本(4)-加来(4)	41"87	6.19

**男子 4×400mR**

1	藤田(4)-藤田(5)-森本(4)-小西(M1)	3'15"84	6.19
2	小嶋(2)-河野(3)-藤田(4)-箕島(4)	3'17"17	7.31
3	越村(5)-森本(4)-藤田(4)-箕島(4)	3'18"54	5.21
4	藤田(4)-河野(3)-稲葉(5)-森本(4)	3'20"57	10.1
5	加来(4)-森本(4)-河野(3)-越村(5)	3'20"98	4.2

**男子走幅跳**

1	西村智宏(4年)	7m62(+1.2)	7.31
2	木下秀明(2年)	7m17(+1.0)	7.31
3	深澤竜太(4年)	7m06(+1.2)	7.31
4	草野恒平(3年)	6m91(+0.7)	7.30
5	村井輝(1年)	6m63(+1.6)	7.30

**男子三段跳**

1	木下秀明(2年)	15m09(+1.3)	10.1
2	吉田侑弥(4年)	14m75	6.19
3	田中恭平(5年)	14m11(+2.0)	3.20
4	平木基人(2年)	13m84(-0.6)	10.1
5	原澤龍平(1年)	13m49(+1.2)	9.25

**男子走高跳**

1	福永大輔(4年)	2m12	7.31
2	木下秀明(2年)	1m90	10.1
3	赤塚智弥(1年)	1m80	6.19
4	寶田雅治(3年)	1m75	7.31

**男子棒高跳**

1	三宅功朔(1年)	4m90	7.31
2	松下周平(4年)	4m50	5.22
3	加来宗一郎(4年)	3m60	7.31
3	戸部潤一郎(2年)	3m40	5.29
4	寶田雅治(3年)	3m00	3.28

**男子砲丸投**

1	奥村俊樹(4年)	11m83	7.31
2	土井雅人(3年)	11m07	7.31
3	鍵本直人(4年)	10m33	6.19
4	加藤輝仁(3年)	10m23	5.29
5	山之内良太(3年)	8m86	8.27

**男子円盤投**

1	奥村俊樹(4年)	36m61	7.31
2	土井雅人(3年)	33m75	5.21
3	鍵本直人(4年)	32m96	5.29
4	山之内良太(3年)	27m12	10.1
5	八木澤光大(2年)	24m42	5.29

**男子やり投**

1	奥村俊樹(4年)	57m21	10.1
2	加藤輝仁(3年)	49m84	6.19
3	田中恭平(5年)	49m13	8.27
4	八木澤光大(2年)	47m89	10.1
5	加来宗一郎(4年)	37m96	5.29

**男子ハンマー投**

1	鍵本直人(4年)	44m52	7.30
2	加藤輝仁(3年)	24m49	10.1
3	土井雅人(3年)	15m81	10.1

**女子 100m**

1	内山咲良(1)	12"81(+0.7)	10.1
2	白形優依(4年)	13"22(-0.3)	5.29
3	笠村洋子(4年)	13"77(-0.7)	5.29
4	石丸夏奈(2年)	14"93(0.0)	3.27

**女子 400m**

1	坪浦諒子(3年)	58"19	7.31
2	白形優依(4年)	61"11	10.1
3	河原未来(4年)	64"37	8.27

**女子 800m**

1	高石涼香(2年)	2'13"33	7.3
2	荒木玲(2年)	2'25"83	5.29
3	河原未来(4年)	2'29"98	10.1

**女子 1500m**

1	高石涼香(2年)	4'42"33	9.16
2	藤原ゆか(2年)	4'59"21	4.23
3	荒木玲(2年)	5'07"19	7.9

4 黒岩道子(2年)	5'07"78	10.22
5 堀越美菜(2年)	5'38"03	9.24

**女子 3000m**

1 高石涼香(2年)	10'32"62	6.19
2 藤原ゆか(2年)	10'35"87	10.1
3 堀越美菜(2年)	12'19"39	9.10

**女子 100mH**

1 笠村洋子(4年)	17"08	5.29
------------	-------	------

**女子 400mH**

1 坪浦諒子(3年)	61"54	6.26
------------	-------	------

**女子 3000mSC**

1 堀越美菜(2年)	14'03"94	10.2
------------	----------	------

**女子 4×100mR**

1 河原(4)-内山(1)-白形(4)-坪浦(3)	50"81	10.1
2 高橋(3)-白形(4)-笠村(4)-坪浦(3)	50"94	5.5
3 河原(4)-内山(1)-白形(4)-堀越(2)	53"60	7.31
4 河原(4)-内山(1)-白形(4)-高石(2)	62"29	8.28

**女子走幅跳**

1 内山咲良(1年)	5m52(+0.1)	9.24
2 白形優依(4年)	5m31(+0.3)	7.31

**8. 今季樹立東大記録一覧**

男子 100m	西村智宏(4)	10"56(+0.8)	10.1
男子 800m	軽部智(4)	1'51"81	8.7
男子 5000m	近藤秀一(2)	14'03"63	9.25
4×100mR	泉(5)-西村(4)-松本(4)-稲葉(5)	40"46	10.1
男子走高跳	福永大輔(4)	2m12	7.31
女子 800m	高石涼香(2)	2'13"33	7.3
女子 1500m	高石涼香(2)	4'42"33	9.16
女子 400mH	坪浦諒子(3)	61"54	6.26
女子走幅跳	内山咲良(1)	5m52(+0.1)	9.24

**9. 主務より****9.1 応援 OB・OG 紹介**

10/15 に自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園で行われました第 93 回箱根駅伝予選会に際し、応援に駆けつけてくださった OB・OG の方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和 32 年卒	古寺博
昭和 34 年卒	上原豊吉
昭和 40 年卒	白神賢志
昭和 42 年卒	伊澤敏彦
昭和 51 年卒	田上静之
昭和 57 年卒	中山亨
昭和 63 年卒	吉富亮平
平成 13 年卒	中台慎二
平成 13 年卒	新妻拓弥
平成 15 年卒	相原佑康
平成 16 年卒	田坂和彦
平成 21 年卒	梶井駿介
平成 21 年卒	金尾太郎
平成 21 年卒	松本光一
平成 23 年卒	渡邊拓也
平成 25 年卒	青沼和幸
平成 25 年卒	岩川純也
平成 25 年卒	大久保翔平
平成 25 年卒	川端紘介
平成 25 年卒	野田智博
平成 25 年卒	渡邊陽大
平成 26 年卒	小野田実真
平成 27 年卒	今須宏美
平成 27 年卒	富岡真悟
平成 27 年卒	中里彰
平成 28 年卒	鈴木敦士
平成 28 年卒	藤井将大

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、現役部員一同心より御礼申し上げます。また、北海道清里町からもたくさんの方々が応援にお越しくございました。心より感謝申し上げます。



## 9.2 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二
TEL : 03-5370-9370
Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：後藤裕瑛
〒240-0046 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向西 22-3-914
TEL : 070-6573-6935
Mail : shumu@uttf.org
学生主務補：富原健太
Mail : uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 後藤裕瑛

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の須藤までお送り下さい。

部便り主任 須藤克誉

(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)